

公民館報 まつもと

発行
2021
3/30

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 54

キッチンカーで移動販売!!

大きく変わった日常を乗り越えるため、3店舗が共同で新しい形の販売をスタート
県の補助金制度を利用して購入した車両で、自慢の一品を提供する



鼎談者と職員が一体となってライブ配信

つなぐ工夫と学び

令和3年2月21日(日) 第36回公民館研究集会・令和2年度地域づくり市民活動研究集会の基調講演と鼎談を、初めて無観客でライブ配信しました

2次元コード

YouTube松本市
公式チャンネルまちづくりの集い案内
松本市公式ホームページ

コロナ禍での公民館の役割

県生涯学習推進センター木下巨一所長、松本大学向井健専任講師、第三地区まちづくり協議会降旗都子副会長の3人で鼎談が行われました。

感染症予防のためオンラインで会議や授業をすることが必要になりました。互いが離れていても工夫しうまく対話する例が紹介されました。学びと交流の役割は、時代の変化に柔軟に因應するため、市の担当者と活動する地域住民が、共に成長することです。

オンライン配信は発信者と視聴者が画面を介して学び合う新しい形です。左の2次元コードからぜひご覧ください。



タブレット画面で視聴中

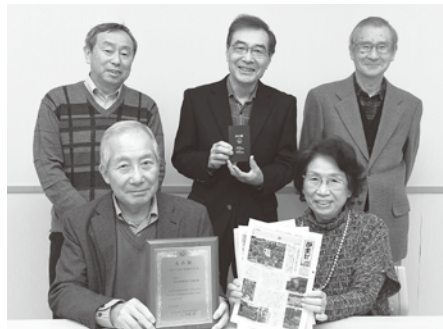
松本さんぽ

〈夢に翼を〉

3月はじめ、多くの高校で卒業式が行われた。規模を縮小しての開催。しかし、どんな時も若者には夢があり、その夢には輝く翼がある。苦しい時代であっても、彼らが羽ばたく空は、青く高くどこまでも広がってほしい。



(撮影：2021.3.4 田川高校)



とてもうれしく励みになります

令和2年度の第8回全国公民館報コンクールで、鎌田地区

鎌田地区の公民館報が全国入賞

5人の編集委員が身近な話題で記事作り

区公民館が奨励賞を受賞しました。

松本市は35地区それぞれで地区版を発行していますが、松本市のコンクール入賞は6年ぶりです。

編集で心がけていることは、身近な話題を取り上げ、写真を多くし、読みやすい記事にすることです。また、いくつかの連載を続けながら、いかに興味を持って読んでもらえるかを考えています。

まつもと今昔 53

松本市街地中心に位置する千歳橋。ここから見た四十五年前の景色は今とは大きく異なります

当時は女鳥羽川の水辺は整備されておらず、簡単に下りることもできませんでした。下水道もまだ未整備なところ

が多く、家庭雑排水などが流入し水質も悪化していました。イベントでもなければ目を向ける場所ではなかったで

しょう。水質は現在ではフナやコイが群遊するまでによりがえりました。また、市街地の区画整理が行われ、時計博物館やMウイングなどの特徴ある建物が川沿いに建てられました。春には桜やこいのぼりが色を添えます。



文化財防火デーの放水訓練 (撮影: 1976. 1. 26)



整備が進み憩いの場に (撮影: 2021. 1. 30)

夫婦堤音楽祭

わがまち自慢 (波田地区) めおとつみ

波田地区西部の山際に夫婦堤があります。堤に隣接しているゲートボール場において、毎年桜の花が咲く頃に合わせ開催されるのが夫婦堤音楽祭です。この音楽祭は地域の住民に子どもたちの素晴らしい音楽に触れてもらいたいとの思いから企画されました。近隣の小、中、高の合唱、吹奏楽、波田少年少女合唱団による演目を楽しむことができます。



合唱を披露する波田少年少女合唱団 (2019年)

おこひる

小さい頃、家に帰るといつも三毛猫のミイが迎えてくれた。一緒におやつを食べ、じゃれて遊んで両親の帰り待っているといつもふたりで眠っていました▼ミイとの出会いは私が保育園のとき。家族は共働きの両親と年の離れた兄だったの

で、一人で寂しくないようにと父が貰ってきてくれた▼ある日、犬に追いかけられたミイが近所のお寺の高い木に登ってしまった。降りられなくなったミイを見つけて、学校から帰った兄とハシゴを持って助けに行った▼下で私を押さえ、兄が登ったのだが届かない。私たちの勢いに興奮してさらに上まで行ってしまう。それ以上は子どもの手には負えず、洪々家に帰ったが、心配で心配で泣きながら眠ったのを覚えている。翌朝「自分でちゃんと降りられたわよ!」誇らしげな眼をしてシレっと好物の朝ごはんを食べているミイがいた▼あれから四十年。今、我が家には三毛猫のチップがいる。今朝も「ねえ、カツオブシ早くしてくれない?」そう言って私を見上げるのだ。

歴史探訪

探ろう松本 21

国宝松本城の北に広がる文化薫るまち

城北地区

地域の概要

城北地区は国宝松本城のすぐ北側に位置し、昭和34年安原地区が城北・城東・安原の3地区として再編成され誕生しました。

現在14町会、世帯数約3700戸、人口約7800人、90世帯に満たない町会から700世帯を越す町会が混在し、高齢化率は27・4%で、全市平均を下回っています。

地区を流れる大門沢川は、暴れ大門といわれていましたが、今は中央図書館周辺でホタルの名所となっています。



歴史と文化

令和元年9月に国宝に指定された旧開智学校、武家屋敷の高橋家住宅、松本城主小笠原氏が敬ったといわれる大日堂。知の殿堂の中央図書館、深志高校。歴史と文教の数多くの施設があり「学都」の雰囲気を感じさせてくれます。

初代松本市長小里頼永は、晩年をこの地で過ごしました。さらに県歌「信濃の国」の作詞者である浅井利永を代表とする多くの著名人ゆかりの地でもあります。

地区の取り組み

平成19年1月に「城北地区住みよい町づくりを進める会」を発足。「防災を中心とした福祉の町づくり」などのテーマに基づいて、安心・安全な地域づくりに取り組んできました。

平成26年4月の「地域づくりセンター」設置を契機として、翌年「城北地区住みよい町づくり協議会」に再編。「安全の部会」「健康の部会」「福祉の部会」の三部門からなり、「福祉の部会」では、誰でも集えるカフェとして、平成29年11月から「カフェすいれん」が沢村と白金の町内公民館で毎月一回開催されています。



3カ月ぶりの笑顔! (すいれん沢村)

これなあに?

牛つなぎ石

本町交差点にある牛つなぎ石には、永禄11(1568)年1月12日に、上杉謙信が送った塩を運んだ牛がたどり



着いた、との伝承があります。これを記念して塩市が始まったといわれていますが、享保9(1724)年に編纂された「信府統記」には「初市」と記録されており、「高美甚左衛門日記」の文化13(1816)年の記録に「あめ市」の表現が見られます。

天保14(1843)年に発行された「善光寺道名所図会」(松本市立博物館収蔵)に初市の様子が描かれています。現代と変わらぬにぎわいをうかがい知ることができます。

松本平の野鳥たち

全長15cm、オスは赤く、メスは茶色。柔らかい声で「フィット フィット」と鳴く。平地の低木林や藪のある環境を好む。赤い鳥では他にオオマシコが有名だが、松本市内の平原で観ることのできる赤い鳥といえば、ベニマシコのオス。アルプス公園でも冬に人気の高い鳥。



ベニマシコ

(撮影:2021.1.28 松本市)